



みんなの図書館

編集発行／上尾市図書館 〒362-0037 上尾市上町1-7-1
TEL 048-773-8521 FAX 048-776-7330

パソコン <http://www.city.ageo.lg.jp/ageolib/>
スマートフォン <https://www.lics-saas.nexs-service.jp/city-ageo/spopac/index.do>

図書館だより

令和2年

なつ号

(7・8・9月)

No.223

図書館ご利用時のお願い

新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、ご来館の際は以下のことを守ってご利用いただきますよう、お願いします。

- ・来館の際は、必ずマスクを着用のうえ、館内にある消毒液での手指の消毒をお願いいたします。
- ・体調に不安がある場合（咳・熱・だるさ・喉の痛みなど）は、ご来館をお控えください。
- ・お並びの際は、十分な距離をとってお並びください。
- ・3密を避けるため、なるべく短時間でのご利用にご協力ください。
- ・新型コロナウイルスの感染状況により、再度臨時休館することがあります。あらかじめご了承ください。



皆様が安心してご利用いただけるよう、ご協力をお願いいたします。



図書館カレンダー



7月

日	月	火	水	木	金	土
			1	2	3	4
5	6	7	8	9	10	11
12	13	14	15	16	17	18
19	20	21	22	23	24	25
26	27	28	29	30	31	

8月

日	月	火	水	木	金	土
						1
2	3	4	5	6	7	8
9	10	11	12	13	14	15
16	17	18	19	20	21	22
23	24	25	26	27	28	29
30	31					

9月

日	月	火	水	木	金	土
		1	2	3	4	5
6	7	8	9	10	11	12
13	14	15	16	17	18	19
20	21	22	23	24	25	26
27	28	29	30			

■ は休館日です

【毎週月曜日、ただし月曜日が祝日にあたる場合は開館します】

* 7月23日(木・海の日)、7月24日(金・スポーツの日)、
8月10日(月・山の日)、9月21日(月・敬老の日)、
9月22日(火・秋分の日)は開館します。

※休館日は、変更になることがあります。最新の情報は、市内各図書館や図書館のホームページでご確認ください。

催し物情報については、館内掲示やホームページでお知らせします。

図書館おすすめの1冊

令和元年度に上尾市図書館に仲間入りした本の中から、図書館員おすすめの本を紹介します。
※〔 〕内は請求番号です。

毎日にひと工夫

『がんばらない料理』
たなか れいこ/著
家の光協会〔596〕

『草取りにワザあり!』
西尾 剛/著
誠文堂新光社〔615〕

『「自分」を生きる』
坂東 眞理子/著
あさ出版〔159バ〕



伝説の“仕事人”たち

『1兆ドルコーチ』
エリック・シュミット/著 他
ダイヤモンド社〔336.3〕

『アメリカ大使館
神といわれた同時通訳者』
松本 道弘/著
さくら舎〔801〕



改めて学んでみたい

『埼玉の風土がよくわかる本』
菊池 建太/著
さわらび舎〔291.3〕

『日本の仏様解剖図鑑』
瓜生 中/著 エクスナレッジ〔186〕



『岩波国語辞典 第8版』
西尾 実/編 他
岩波書店〔R 813〕

歴史を振り返る

『危機と人類 (上・下)』
ジャレド・ダイヤモンド/著
日本経済新聞出版社〔209〕

『歴史を変えた100冊の本』
スコット・クリスチャンソン/著
コリン・ソルター/著
エクスナレッジ〔028〕



『百鬼園戦前・戦中日記 (上・下)』
内田 百間/著
慶応義塾大学出版会
〔915.6ウ〕



現代社会を考える

『本当の貧困の話しよう』
石井 光太/著
文藝春秋〔368.2〕
※本館青少年(YY)コーナーにもあります。

『脱プラスチックへの挑戦』
堅達 京子/著 他
山と溪谷社〔519〕



日常に彩りを

『星を楽しむ双眼鏡で星空観察』
大野 裕明/著 榎本 司/著
誠文堂新光社〔442〕

『岸本葉子の「俳句の学び方」』
岸本 葉子/著 NHK出版〔911.3キ〕



『音楽家の食卓』
野田 浩資/著
誠文堂新光社〔762〕



じっくり楽しむ時代小説

『龍の袖』
藤原 緋沙子/著
徳間書店〔913.6フジ〕

『よろず屋お市』
菅田 龍一/著
早川書房〔913.6ホ〕



自然と生きる

『世界の樹木をめぐる80の物語』
ジョナサン・ドローリ/著
柏書房〔653〕



『気象防災の知識と実践』
牧原 康隆/著
朝倉書店〔451〕



『北岳山小屋物語』
樋口 明雄/著
山と溪谷社〔786〕

家族をめぐる一騒動

『相続レストラン』
城山 真一/著
KADOKAWA〔913.6シロ〕

『うちの父が運転をやめません』
垣谷 美雨/著
KADOKAWA〔913.6ホ〕



お気に入りの1冊を
探してみてね♪



上尾図書館まつり 文学講座
時代劇の舞台
 —『陽炎の辻(原作・居眠り磐音)』と田沼時代

昨年10月に台風19号の影響で中止となっていました大石学先生の講演が、日時を改め、2月15日に開催されました。大石先生はNHK大河ドラマの時代考証を担当されるように、時代考証の専門家であり、東京学芸大学名誉教授でもあります。
 大石先生の講演は、一昨年の「西郷(せご)どん」が大変好評だったので、今回も市民の皆さんの期待が大きく、中止になった時には「がっかりした」との声がかなりあったと聞いていました。講座に参加聴講してきましたので、ご報告します。

佐伯泰英氏原作の人気シリーズ「居眠り磐音」は、昨年5月に映画化され話題になりました。テレビドラマや映画への映像化にあたり、大石学先生は時代考証を担当されました。

その中で、映像作品と文芸作品との違いや、舞台となった時代背景について、江戸時代中期の徳川幕府で大きな権力を握った老中で側用人の「田沼意次」を中心に語られました。



田沼意次の政治は、賄賂と腐敗にまみれたものであったため、「極めて評判が悪かった。」と、後世まで言われ続けています。しかし、政治家としては、道徳的視点に立った善悪論のみにより評価するのではなく、広い意味での政治・経済政策、財政政策等を見極めなければ、きちんとした評価をすることはできないはずです。そうした意味からすれば、田沼意次は非常に優れた政治家であったといえます。

また、田沼政権に対抗する松平定信を中心とするグループがあり、当時の自然災害の影響を利用した米騒動等の裏の動きなど、幕府体制を

揺るがす重大な権力闘争が行われていました。松平定信等は、従来の米中心の農業経済から商品流通経済が重視されるようになったことに危機感を覚え、田沼意次の長男で若年寄の地位にいた田沼意知の暗殺まで実行し、田沼政権の「追い落としクーデター騒ぎ」まで引き起こしています。

要は、後世の評価というのは、時の勝者が作ったものであり、田沼意次の今の評価は、後を継いだ松平定信政権により作られ広まったものであるということです。皮肉にも、田沼政権は約20年間続き、松平政権はわずか5年ほどしか持たなかったそうです。

NHK テレビ正月時代劇として放送された2011年『隠密秘帳』と2017年『陽炎の辻・完結編—居眠り磐音江戸双紙—』の映像では、どのように田沼時代を描いたのかを、登場人物の言葉や表現などから比較していただき、田沼意次が非情な悪として描かれたり、親子愛に満ちた善として描かれたりすることについてご説明いただきました。



私たち図書館ボランティアは、図書館のお手伝いをしています。

